

震災後に威力を発揮したパソコン会議システム

セリングビジョンが提供する「アキュミート」

(語り手) セリングビジョン(株)取締役社長 営業本部長 岡部 秀也
営業本部副長 渡辺佐智子
同 営業本部スタッフ 真壁健一郎

——東日本大震災が発生した直後は、東京でも固定電話や携帯電話がつながりにくい状態になりました。一方、インターネット

が取れた人も多かったろうと思います。そうした中で、セリングビジョンが提供しているインターネットを使ったパソコン会

議システム(テレビ会議システム)が、震災直後から有効に活用されたそうですね。

岡部 電気や通信のインフラが機能しなくなるような未曾有の自然災害のとき、企業にとって最も重要なのは、本社と各事業所が情報を共有し、次の手を迅速に決断したり、短期的な戦略を練っていくことです。組織内

の情報連絡ルートを確保し、社外広報を迅速かつ的確に行い、お客さまへの営業的なサポート

もきちんと実施していくためには、時間との勝負になります。東日本大震災直後には、多くの企業がそれを痛感したのではないのでしょうか。震災に見舞われた3月11日は、私も東京の事務所におりま

したので、自ら体験したのですが、固定電話も携帯電話もほとんどつながりませんでした。一方、PHSは比較的よく通じ、携帯電話のワンセグ機能も問題なく利用できました。また、印象的だったのは、善し悪しは別にして、ツイッターからの震災関連情報でした。

そのような状況の中で、当社

が提供しているパソコン会議システム「アキュミート」も期待どおりの機能を発揮してくれました。「アキュミート」は、インターネット回線を使い、いつでも、どこでも、最大約100か所と同時に情報のやり取りができます。しかも、普通のパソコンと、汎用品のWEBカメラ・ヘッドセットがあれば、ハードウェア面のシステムも簡易に構築できる優れたものです。

100万円で100か所と連携するシステム構築が可能

——パソコン会議システムにも色々ありますが、「アキュミート」は他のシステムと比べてどのような点が秀でているのですか。

岡部 いまでは、国内のプロードバンドがかなり普及しました。大手の企業でも殆どがインターネット回線を介

して、パソコンで情報

報をやり取りしています。かつては、固定電話や携帯電話、衛星通信を通じての情報のやり取りが主流でしたが、今後は、「いつでも、どこでも」というユビキタスの世界で情報

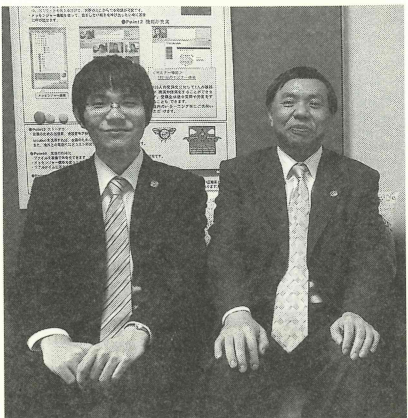
を発信し、入手し、相互交換ができるシステムが極めて重要になっていきます。言い換えれば、「いつでも、どこでも」の情報管理が企業の重要な戦略になっていくはずですよ。そうした中で、とても効果的なのが「アキュミート」です。世界的に利用されているパソコン会議システムであり、当社が10年ほど前からお付き合いしているパートナー会社とタイアップして販売

しています。

第1の特長は、システムが簡易で費用も100万円程度あれば構築できることです。通常は億円単位することも珍しくないパソコン会議システムが100万円です。現在お使いのパソコンとネット回線を利用して、画面やファイル共有しながら、遠隔地との会議が

手軽に実施でき、多大な導入コストや設備は必要ありません。ブロードバンド回線を利用しますので、基本的に通信費は無料ですし、アクセスも楽です。出張回数が減ることによるコスト削減をはじめ、互いに顔の見え

る打ち合わせが可能です。業務効率化面でも大きなメリットを期待できます。システム構築で必要なのは、アキュミートのソフトウエアとそれをダウンロードするサーバだけです。もちろん、特別なサーバを用意する必要はありません。既設のものを活用したり、新しく購入してもせいぜい30から40万円程度です。あとは、WEBカメラとヘッドセットが必要ですが、これらも、家電量販店で購入すれば一セット8000円程度です。それを、会議に参加するパソコン台数分備えておけばよい



左から、真壁さん、岡部社長

のです。

第2の特長は、セキュリティ的に強いシステムである点です。会議では、経営に関わる重要な情報のやり取りもありません。会話を盗聴されたり、データを故意に流出させられると経営の根幹に関わる事態に発展する恐れもあります。「アキュミート」はインターネット回線を使いますので、セキュリティの確保には万全を期しており、その強さには絶対的な自信を持っていきます。当社では、様々なパソコン会議システムを商品として扱っていますが、「アキュミート」がセキュリティの情報セキュリティを保持するため、多くが社内完結型を採っています。したがって、会社のモバイルパソコンを社外に持ち出

して使おうにも、インターネットにはアクセスできません。つまり情報を社外にはクローズして使用しているのです。一方、「アキュミート」は完全にセキュリティを確保していますので、社内でも社外でも常にオンラインに使用します。管理されたパスワードとIDがあれば、インターネットを介して、フリーに誰でも会議に参加できます。使い勝手がユニバーサルで、まさにユビキタスの世界なのです。

第3の特長は、最大で100か所と会議ができることです。しかも、時と場所を選びません。例えば、経営トップが自宅に居たり、海外に出張中だったりしても、経営トップの傍らにモバイルパソコン一台あれば、インターネット回線で繋ぐことによつて、全店を相手に一斉に会議ができます。しかも最大で

100か所同時にできるので。画面で互いに顔を見ながらですと12か所と同時に会議ができます。加えて、その時に、会議参加者の誰かが撮影中の映像をリアルタイムで参加者全員が一斉に見ることも可能です。パワーポイントやエクセル、ワードで作った資料も同様に一斉閲覧できますし、英語・中国語・韓国語などのフォントも入っているの、国際会議でも活用でき、実際にその利用実績もあります。さらに言うと、会議の録音録画も可能なので、録音録画した会議を議事録代わりにすることもできるのです。

映像の圧縮率は世界最高レベルの60分-1

——ひと昔前の企業では、定例会議に参加するため、関係者が出張旅費と時間をかけて本社

す。

——発災現場のリアル映像を会議参加者全員が見て、トップの意思決定を全員が即座に共有することもできるのでですね。

岡部 そのとおりです。映像は、対象物の動きが極端に速いと、データ量が大きくなって伝達速度がやや鈍りますが、全体の動きがそれほど速くなければ、アキュミートの場合、映像の再現性はほぼ問題ありません。インターネット回線を使った映像や音声の電送で一番重要なのは圧縮率です。アキュミートでは、映像の圧縮率が世界最高レベルの60分の1となっています。実用域では違和感なく見えるはずですよ。

国際会議や国防機関でも採用

また、話しは戻りますが、経営者は24時間、いつでも、どこでも、意思決定ができる条件を整えておかなければなりません。最悪のことを想定したリスクマネジメントは先手で進めておくことが絶対に必要なので

——アキュミートはこれまでに、どのような採用例があるのでしょうか。
渡辺 例えば、ある自治体では、県内の公立高校と小中学校など160か所の教育拠点をアキュミートで結び、約10万人を対象にeラーニングを実施したり、不登校児童や父兄とのコミュニケーションツールに利用しています。そして、とくにeラーニングにおいては、遠隔地での同時講習が可能になり、学習効果がアップしたと報告されています。
また、ある大手のスーパーマーケットでは、本部と全国約380店舗を結び、店長会議や各店一斉通達、各店舗の朝夕礼に利用すると共に、グループ店との情報共有にも活用しています。それによって、全店がリアルタイムで情報交換す

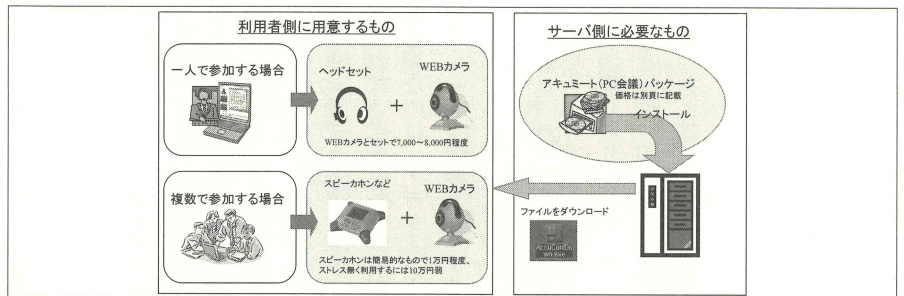


図1 アキュミートのシステム構築で用意するもの

ることが可能になり、業務効率をアップさせているそうです。

さらに、ある大手営業会社では、全国の支社との連絡網にアキュミットを利用しており、定例の支社間会議にかかる出張費の削減に成功し、情報共有もスムーズになりました。

加えて、ある大手重工メーカーでは、国内各研究所と海外事業所との会議を週に数回実施しています。アキュミットは、ファイル共有によるミーティングにメリットがあり、いまでは社内の重要なインフラと位置づけているそうです。

政府レベルでの活用では、APEC（アジア太平洋経済協

力関係会議）で活用されたことがあり、国際的な技術評価を得ています。セキュリティの高さから、国の国防組織で活用されている例もあります。

震災後は2、3時間おきにアキュミットで情報共有

東日本大震災の直後から、アキュミットを有効に活用した電気関係の企業があったそうですね。

真壁 D社では、3年ほど前に当社の提案でアキュミットを導入しました。システムの性能やセキュリティ、コスト面でのメリットを評価していただいたと聞いています。当初の使用方

ビデオビュー/スライドビュー切り替えボタン
・ビデオビューとスライドビューを切替えるときに押します。

文字チャット表示画面
・右クリックでチャットの内容を保存できます。

⑫参加者リスト
・参加者の一覧表を表示します。

⑭チャット文字入力
ウインドウ
チャット文字を入力します。

チャット文字変更ボタン
チャットの文字種を変更します。

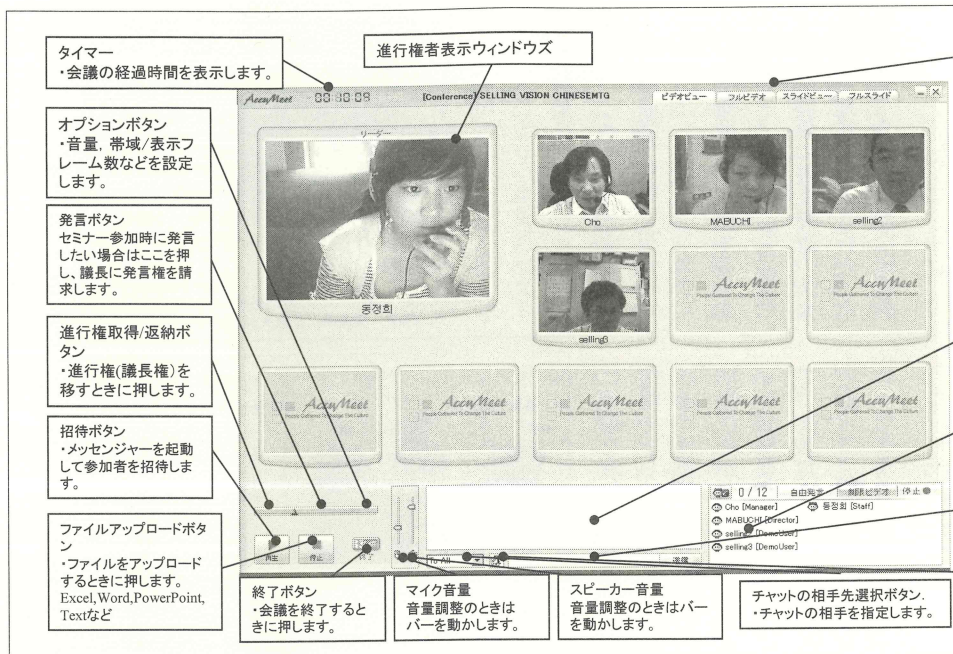


図3 アキュミットで利用できる機能②ビデオビュー

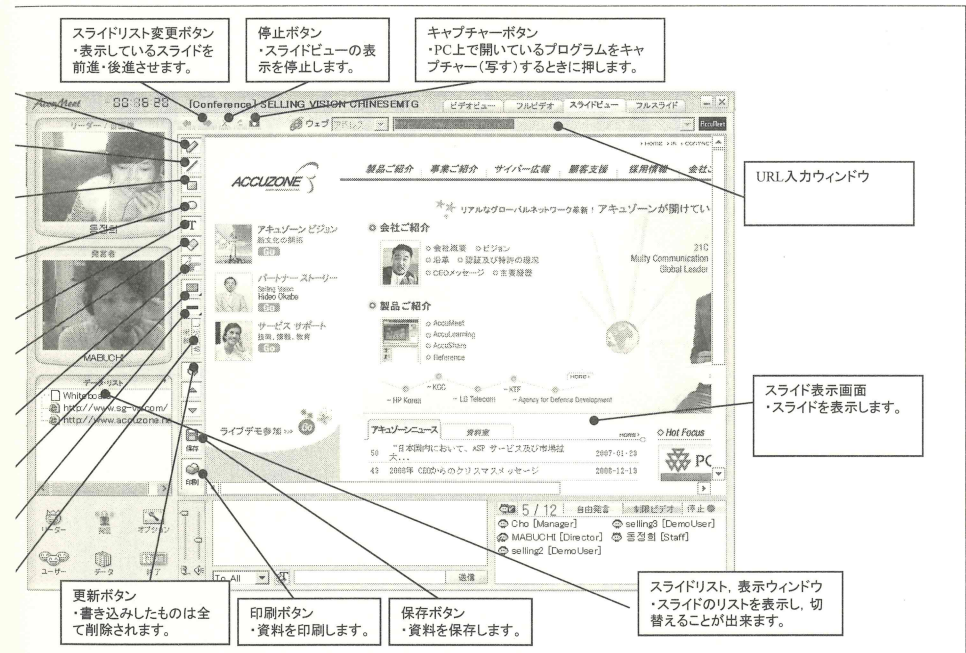


図2 アキュミットで利用できる機能①スライドビュー

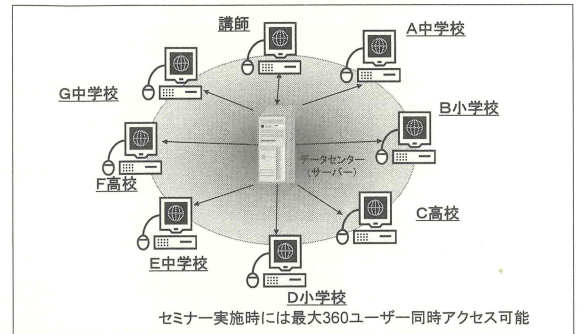
- ペンツール
・自由な線を引きます。
- ラインツール
・直線を引きます。
- 距離ツール
・距離を書きます。
- 楕円ツール
・楕円を書きます。
- 文字入力ツール
・文字を表示します。
- 消しゴムツール
・情報を消します。
- 指差しツール
・指示をします。
- 色選択ツール
・色を選択します。
- 太さ選択ツール
・線の太さを選択します。
- 枠内表示ツール
・枠のみ塗りつぶしの切り替えを行います。

としては、社員個々のパソコンに、WEBカメラとスピーカーを設置して各々のデスクからテレビ会議をするという形で活用していました。そのため、会議に参加する人数が制限されず、ま、しかも参加人数を12人までに制限し、情報の共有も会議参加者にとどまるなど、全社的な活用には至っていませんでした。

しかし、現在の経営陣になった際に、パソコン会議システムをもっと活用したいという社内提案に基づき、本社と事業所を結ぶ全社大の情報戦略ツールとして位置づけ、一拠点から複数人が参加できるように各事業所の会議室にパソコンを設置し、

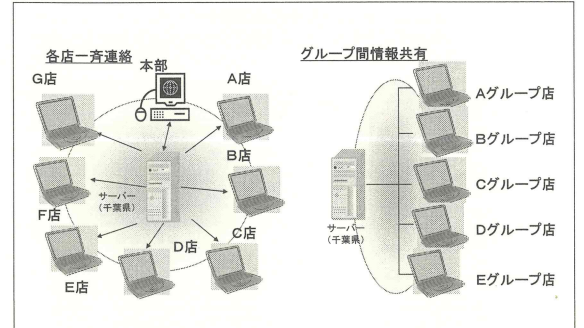
テレビ会議の環境を整え、以前よりも活用の幅を広げました。同時に回線容量を考慮し、第一弾として6拠点が同時に会議に参加できるように設置されました。

そうした取り組みが、3月11日の東日本大震災発生後に奏功したのです。固定電話や携帯電話が通じにくい中、インターネット回線は比較的無事であったため、本店を含む13の拠点事業所間の連絡をアキュミットで実施したのです。実は、この時点でのシステム構成は、6拠点同時接続を想定したものであったのですが、結果としてアキュミットの画像会議モードの最大ユーザ数で使用することになり

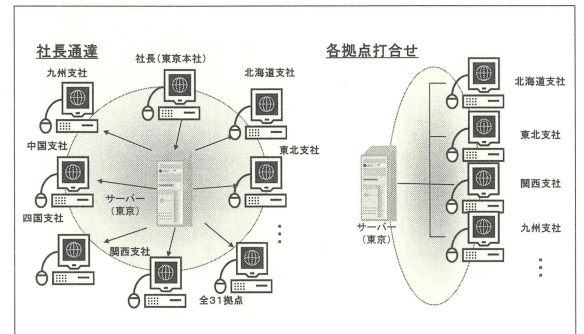


ました。しかし、いざ実施してみると問題がなかったそうです。

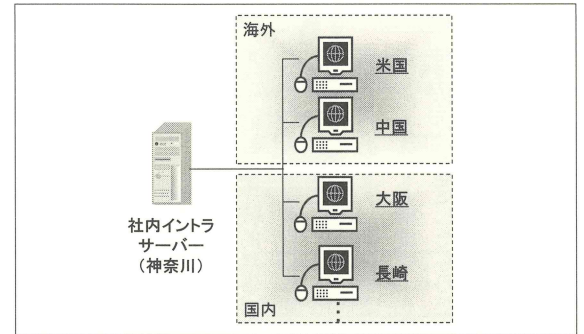
そして震災以降、アキュミートを使って、社員の安否確認、事業所や設備の被災確認の情報収集を、地震直後より行い、その後も2、3時間おきに定期的



に連絡を取り合いながら全社で情報共有していきました。ときには、会議での本店関係者の参加数が多かったため、場所をテレビ会議室から大会議室に移して、役員含めて各支店総数数十名近くで会議を行なったこともあったそうです。



D社がアキュミートを設置しているのは、東京の本店のほか、関東各県に加え、大阪・新潟・福島・長野の各拠点事業所などです。通信回線の容量としては、本社が100Mのメ



タル回線で、他の拠点事業所では主に10Mの回線かADSL回線です。パソコンのOSはウィンドウズXPを使用しています。

図4 アキュミートの活用イメージ

果的に活用されたようですが、日常の活用に関しては、どのような評価をしているのでしょうか。

真壁 アキュミートの費用対効果の面では、D社のある部門が関東各地に拠点があり支社は全国にあるため、会議にアキュミートを使ってパソコン会議をすることに、相当のコスト削減効果が期待できると捉えておられます。ちなみに、D社がアキュミートによる各拠点でのパソコン会議システムを構築するためにかけた費用は、ソフトウェアの購入代を別にすれば、WEBマイクとスピーカーだけで、その総額は36万円程度だったそうです。

今後について、外出先と社内

イントラネットを使い、ファイヤウォールを介さない設定でアキュミートを使用しているため、そこまでは難しいとしながらも、投資の問題を含め検討の余地はあると話しておられました。外出先からもパソコン会議に参加できる環境を確保するために、公共ネットワークと社内ネットワークの双方を使える案もあるのでは、とのお考えでした。

それから、アキュミートで改善するべき点についてお聞きすると、現段階でD社のニーズに合致しており、特段、改善点はないとの認識でした。様々な形態のパソコン会議システムがあります。D社では、社内LANが整備されているため、ソフトウェアをインストールしてちゃんと使えることが重要で、パソコン端末数によつての

コストもそうかからないアキュミートは、コストと機能がマッチしているという評価されています。また震災後は、D社の社員の皆さんが、アキュミートを使い慣れたため、パソコン会議のスタンダードはアキュミートという意識が高まりつつあるようです。

——今後、アキュミートを機能面でさらに充実強化できる可能性についてはいかがですか。

岡部 あえて言えば、アプリケーションシエアリングの機能強化です。アキュミートは、現在の機能でも、例えばパワーポイントを会議に参加する全員で加工することができず、さらなる拡充が可能になれば、活用の幅はぐっと広がるはずだと思います。

のところがパソコンでの利用がベースですが、将来的にはスマートフォンにも対応できるように機能拡張できると思っています。

アキュミートを特別価格で提供

セリングビジョンでは、以前から非常対策とBCP(事業継続計画) 推進の提案に力を入れている。その中で、同社はアキュミートを重要な提案ツールとして強く位置づけており、今回の誌面紹介を機会に、同システムを3セットまで100万円提供し、年間保守料も無料で提供する。詳しくは、セリングビジョンまで。(ホームページ: <http://www.sg-vn.com>)